

## 平成29年度 第1回産学交流セミナー

「もの」づくりから、「価値」づくり、「こと」づくりへ

講師：京都府立大学 京都地域未来創造センター

産学連携リエゾンオフィス 所長 田中和博氏



京都府立大学は、2017年4月、これまでの地域連携センターと京都政策研究センターの機能を一つに統合した新しいセンターとして京都地域未来創造センターを設立しました。産学連携推進の機能は、新センター内に設置されたリエゾンオフィスが担当することになりました。また、技術開発を活かした「もの」づくりに加えて、地域の生物資源などの特性評価や検査に基づく「価値」づくり、地域の文化・歴史・伝統に根付く「こと」づくり、さらには、公共政策と連携した「社会システム」づくりに至るまで、公立大学として産学公金連携に取り組んでいます。

本講演では、京都府立大学の最新の研究シーズと技術開発に必要な「もの」づくり、「価値」づくり、さらには地域に密着した「こと」づくりについて紹介しました。

## ■ 「もの」づくりとその宿命

産学連携における「もの」づくりとは、企業の高付加価値化、低コスト化等の製品開発に対して、大学のアイデア、特許を活用して新製品を創出することである。しかし、「もの」づくりは、すぐに真似されるので新機能追加、更なる低コスト化等のイノベーション（技術革新）が必要である。

京都府立大学には、「殺菌しない感染抑制剤」「肌に優しい化粧品用白色顔料」等「もの」づくりにすぐに貢献するシーズや、「多糖の糸の創製」「イオン液体を用いたバイオマスからの有用化学物質生産」等これから貢献が期待できるシーズの紹介があった。

## ■ 「価値」づくり

「もの」に対して、検査・表現・評価手法により付加価値をつけるのが「価値」づくりであり、京都府立大学には「表面プラズモン加熱による超高感度病原体検査法」等医療現場、食品関連現場での応用が期待できるシーズの紹介があった。

## ■ 「こと」づくり

地域に対するデザインや人への安心・感動・文化等への取り組みが「こと」づくりであり、京都府立大学には「京料理を活用した地域づくり」「交流人口増加を図る地域創生」等地域貢献に取り組んでいるシーズの紹介があった。

## ■ 京都府立大学のCOC+教育プログラム

学生が自分の将来の進路や生き方を考える場として、「地（知）の拠点」の構築をめざした「京都の地域創生」「地域創生フィールド演習」に取り組む「新たな教育プログラム」の紹介があった。

## ■ 講演風景

